エネルギー供給の動向

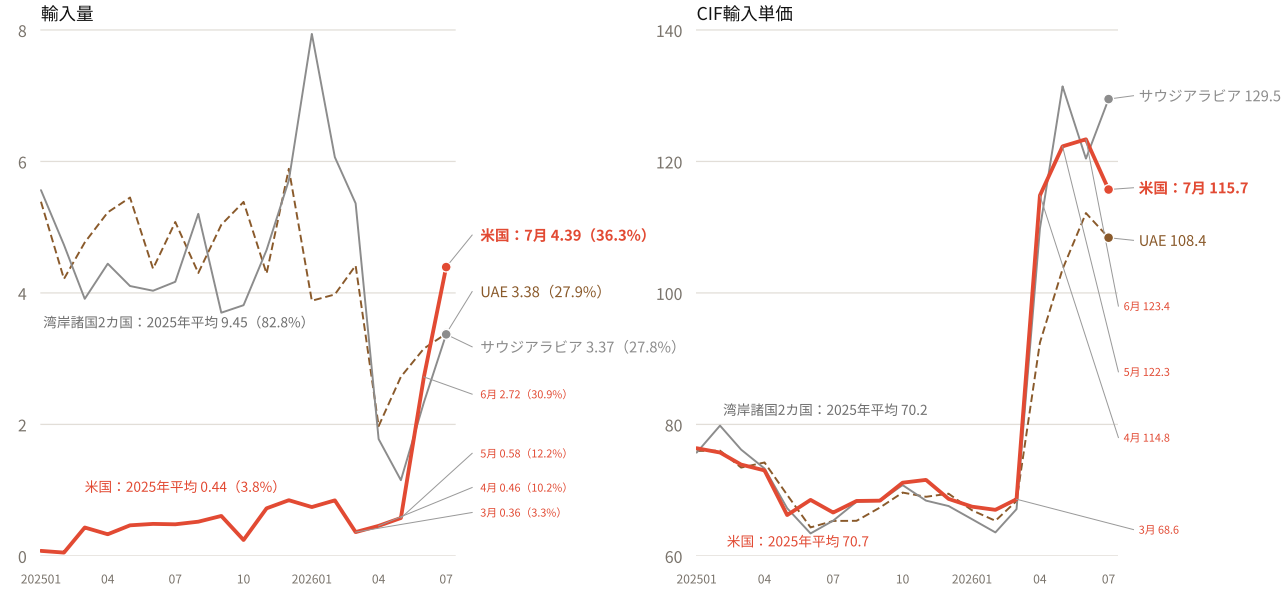
ホルムズ危機が促す原油供給先の分散化

2026年7月、日本の原油輸入量に占める米国のシェアは36.3%に達し、2015年1月以降で初めてサウジアラビア・アラブ首長国連邦（UAE）を上回り最大の輸入先となった。背景には、2月末のイスラエル・米国によるイラン攻撃を契機としたホルムズ海峡の航行不安があり、日米間では原油調達拡大に向けた協力を確認している（3月の日米首脳会談）。CIF輸入単価は主要供給国いずれも上昇している。しかし、危機下でこれほど急速に調達先を切り替えられた経験は、平時の供給網強化や価格交渉における資産となる可能性がある。

野村浩二・稲場翔（慶應義塾大学産業研究所） 2026年9月11日

2026年7月、米国の原油輸入シェアが36.3%に上昇し最大に

2025年1月–2026年7月における原油輸入量・輸入単価の相手国別推移（米国・サウジアラビア・UAE）



単位：百万KL（左図）、円/L（右図：CIF輸入単価）。出典：財務省「貿易統計」（2026年8月28日公表）。
注：原油はHS270900100、HS270900900の合計により定義する。左図内の数値は輸入量、括弧内は原油輸入総量に占めるシェアを示す。右図内の数値はCIF輸入単価。

エネルギーモニターについて

エネルギーモニター（Energy Monitor: EM）は、主要国のエネルギーコスト・需給および産業の動向を紹介するニュースレターです。分析は、エネルギーコスト・モニタリング（Energy Cost Monitoring: ECM）が毎月公表するECM Database、およびその基礎資料となる国内外の公的統計に基づきます。掲載する各指標は、基礎データの更新・拡充や推計方法の改善に伴い、今後改訂される場合があります。

リンク

エネルギーモニター

ECM Japan

ECM Dashboard

エネルギーモニターのバックナンバーおよびニュースレター配信の登録は専用サイト、ECM各種指標の国内動向はECM Japan、国際比較はECM Dashboardをご覧ください。